

令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	有限会社アゴラ企画	
施設名	こまばアゴラ劇場・アトリエ春風舎	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	30,062	(千円)
公演事業	19,499	(千円)
人材養成事業	6,327	(千円)
普及啓発事業	4,236	(千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	青年団リンク 公演	中止 ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。※	目標値	770
		こまばアゴラ劇場		実績値	0※
2	青年団演出部 4月公演	4月3日～4月11日	『自由の国のイフィゲーニエ』作：フォルカー・ブラウン 演出：蜂巢もも 出演：岩井由紀子、串尾一輝、田中孝史、日和下駄	目標値	540
		こまばアゴラ劇場		実績値	244※
3	青年団演出部 7月公演	中止 ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。※	目標値	450
		こまばアゴラ劇場		実績値	0※
4	青年団演出部 11月公演	11月4日～12月7日	『柔らかく揺れる』出演：ぱぷりか 『みんなしねばいいのに II』出演：うさぎストライプ	目標値	1,485
		こまばアゴラ劇場		実績値	991※
5	こまばアゴラ劇場 5月公演	5月26日～5月30日	『蝶のやうな私の郷愁』作：松田正隆 演出：永山智行 出演：日高啓介、多田香織	目標値	330
		こまばアゴラ劇場		実績値	245※
6	こまばアゴラ劇場 6月公演	6月11日～6月20日	作・演出：ゼロコ 出演：角谷将視、濱口啓介	目標値	600
		こまばアゴラ劇場		実績値	366※
7	こまばアゴラ劇場 7月公演	7月2日～7月11日	『ウィルを待ちながら——インターナショナル・ヴァージョン』作・演出：河合祥一郎 出演：田代隆秀、高山春夫	目標値	600
		こまばアゴラ劇場		実績値	482※
8	こまばアゴラ劇場 9月公演	9月11日～10月4日	『君が忘れたダンスフェス』出演シーユーインヘル 『盲年』出演：幻灯劇場	目標値	1,045
		こまばアゴラ劇場		実績値	714※
9	こまばアゴラ劇場 1月公演	中止 ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。※	目標値	935
		こまばアゴラ劇場		実績値	0※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	青年団若手自主企画	10月11日～12月27日	『動ける／動けない言える／言えないを考えるWS』スタッフ：升味企画 『東京の一日』出演：宮崎企画 『転校生』出演：山中企画	目標値	895
		アトリエ春風舎		実績値	796※
2	高校演劇ワークショップ ／高校演劇サミット	8月7日・8日 ※	(高校演劇ワークショップ) 講師： 島田曜蔵 井坂浩 泉田雄太 金澤昭 他 (高校演劇サミット) 中止※	目標値	入場者 540・参加者 60
		こまばアゴラ劇場		実績値	参加者 42※
3	こまばアゴラ劇場 演劇 ワークショップ研修会	4月11日～3月23日	講師：平田オリザ、田野邦彦、わたなべなおこ、林成彦、河野悟、村井まどか、菊池ゆみこ、他	目標値	30
		こまばアゴラ劇場、他		実績値	25※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	駒場幼稚園 こまばクラブ演劇ワークショップ	中止※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	130
		中止※		実績値	—※
2	福島県被災地域における防災及びふるさと創造学ワークショップ	10月14日～11月20日	【出演者・スタッフ】林成彦（演出家）、村井まどか（俳優）、森内美由紀（俳優）、河野悟（俳優）、菊池ゆみこ（俳優）、ほか	目標値	800
		いわき市立平第二小学校、福島県立いわき総合高校		実績値	172※
3	海城中学校「演劇を使ったコミュニケーション研修」事業	2021年4月、11月 2022年1月	【出演者、スタッフ】有吉宣人、折原敬一、窪田壮史、永井祐美子、村田牧子、山本雅幸、渡辺直子、他	目標値	980
		海城中学校		実績値	960

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

こまばアゴラ劇場が目指す、「『劇場文化』の定着と世界的芸術作品の創造」「海外公演・国際交流事業の推進」「地域ネットワークの構築推進」「人材養成・普及啓発事業の拡充」というミッションに基づき、15事業を計画。内4事業は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。普及啓発事業2に至っては、受入先となる学校側の方針もあり、全体の実施回数も大幅に縮小せざるを得ない結果となった。

2021年4月末～9月末、1月末～3月末のほとんどの期間が、緊急事態宣言もしくはまん延防止等重点措置が発令されていたため、客席数を減らすなどの対応を行った。そのため、実施できた事業についても、入場者数が目標値を下回る結果となってしまった。

しかし、公演が中止になり劇場が空いた期間に、若手の青年団演出部が公演を行って研鑽を積む機会とし、来場できない観客のためにも積極的に映像配信を行うなどし、劇場としての役割を担うことができた。

また、広報専門のプロジェクトチームを立ち上げて、劇場のSNSをこれまで以上に稼働させるなどインターネットを活用し、コロナ禍におけるより効果的な広報の仕方を検討・実践したことで、目標値から大きく乖離することは避けられた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

こまばアゴラ劇場が通常の貸し小屋業務（賃貸料を取って劇団に劇場を貸す日本の従来の劇場システム）をすべて停止し、劇場で行われる全公演を「こまばアゴラ劇場プロデュース」として活動し始めたのが2003年。それ以降、カンパニーごとに助成金を獲得していくというニーズに合わせて、一部貸し小屋としての機能も復活させたが、なおも劇場が主催となることをベースとし、まだ評価の定まっていない若いカンパニーの創作活動を支援しながら、観客とカンパニーが有機的な関係を築ける場として活動を続けている。

また、これまでの20年弱にわたる継続的な活動により、平田オリザ率いる劇団青年団の創造活動は、「新作創作」「レパートリー作品のブラッシュアップ」「地方巡演」「海外公演」といったように、地域から全国、世界へと発信していくサイクルが確立出来ている。

青年団演出部やこまばアゴラ劇場が主催した若手カンパニーからは近年、全国各地の様々な戯曲賞・演劇賞等の受賞者が毎年のように出ており、「こまばアゴラ劇場主催公演」「青年団リンク公演」といったクリエーションや「青年団若手自主企画」等の人材養成事業が堅調に機能している。2021年度は、青年団演出部の福名理穂が劇作し「こまばアゴラ劇場主催公演」として上演した作品が第66回岸田國士戯曲賞を受賞。同じく演出部の高山さなえが第27回劇作家協会新人戯曲賞を受賞した。

以上からも、助成に値する意義が継続して認められると言える。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業・人材養成事業・普及啓発事業とも新型コロナウイルス感染症の影響により、多くが指標として挙げた目標値は達成出来ていない。令和3年度も令和2年度に引き続き、目標値達成前に、活動の最低限の維持が主眼となっており、コロナ禍収束後を見据えた体力の維持・温存を図っている。新型コロナウイルス感染症の影響により、いずれの事業においても観客や参加者の密集を避ける措置が必要となったため客席数を減らすなどの対策を行い、加えて外出自粛要請による社会的な雰囲気も影響し、入場者数・参加者数は大幅に減少した。

しかし、公演事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、取りこぼしのないよう観客層拡大に向けての訴求を強めた結果、指標として挙げた目標値をいくつか達成している。

【主な指標】

(公演事業)

- ・支援会員数(実績 265 人／目標 340 人)
- ・支援会員制度連携劇場数(実績 6 劇場／目標 6 劇場)
- ・ポストパフォーマンストーク開催回数(実績 31 件／目標 60 件)
- ・平日マチネ公演回数(実績 50 回／目標 40 回)
- ・メールマガジン発信数(実績 21 件／目標 20 件)
- ・支援会員特設割引制度による会員数(実績 58 名／目標 50 名)
- ・託児サービス対象公演数(実績 0 公演／目標 2 公演)
- ・訪日外国人入場者数(実績 19 名／目標 250 名)
- ・新聞雑誌等主要メディアへの劇評記事等掲載件数(実績 8 件／目標 10 件)

(人材養成事業)

- ・青年団若手自主企画公演作品創作者による戯曲賞・演出家コンクール等への応募数(実績 4 件／目標 10 件)
- ・青年団若手自主企画公演作品創作者による創作企画公演数(実績 4 件／目標 6 件)
- ・高校演劇ワークショップ参加者による創作作品数(中止により実績 12 件／目標 12 件)
- ・ワークショップ研修会参加者主体による普及啓発活動のコーディネート・ファシリテーション件数(実績 8 件／目標 10 件)

(普及啓発事業)

- ・駒場幼稚園「こまばクラブ演劇ワークショップ」での上演来場者(中止により実績 0 名／目標 30 名)
- ・防災ワークショップの参加者数(実績 150 名／目標 300 名)
- ・ふるさと創造学ワークショップの参加者数(事業規模縮小により実績 22 名／目標 500 名)
- ・海城中学校「演劇を使ったコミュニケーション研修」事業における参加者数の増加(実績 960 名／目標 980 名)

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

今年度においても、2021年4月末～9月末・1月末～3月末のほとんどの期間で緊急事態宣言もしくはまん延防止等重点措置が発令されていたため、事業計画にも大きな影響を受けた。公演事業では、事業番号1「青年団リンク 公演」、事業番号3「青年団演出部7月公演」、事業番号9「こまばアゴラ劇場1月公演」が創作・上演環境が整わず、やむを得ず中止とした。

人材養成事業では、事業番号2「高校演劇ワークショップ／高校演劇サミット」では、「高校演劇ワークショップ」は開催されたものの、「高校演劇サミット」は全国の高等学校に参加を呼びかけるものである都合上、昨年同様、移動の困難から中止となった。

普及啓発事業においても、大人数の幼稚園児や中高生等と対面で長時間にわたって接する必要があるという事業の性格上、クラスター発生のおそれもあり、事業番号1「駒場幼稚園こまばクラブ演劇ワークショップ」は昨年同様に中止とした。また事業番号2「福島県被災地域における防災及びふるさと創造学ワークショップ」も、予定していた事業のほとんどを開催することが叶わなかった。開催したいくつかの講座については、規模を縮小したり生徒を小人数に分散させたりするなどして、最大限の対策を講じて行った。

いずれも中止した事業については令和4年度以降の開催を見込んで引き続き準備を継続している。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

普及啓発事業番号3「海城中学校 「演劇を使ったコミュニケーション研修」事業」については、感染症対策の観点から生徒を分散させるために、講師を逆に多く投入せざるを得ず、事業費が当初より膨らむ結果となった。それ以外の事業については公演事業・人材養成事業とも、中止や規模を縮小した事業においては大幅な決算の減額が見られるものの、予定通りに実施した事業では概ね、当初計画通りの事業費で開催することが出来ている。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

公演事業番号4「ぱぷりか『柔らかく揺れる』」では、青年団演出部所属の福名理穂が同作で第66回岸田國士戯曲賞を受賞した。本作は、選考委員の岩松了氏が「地方都市の或る一族の怠惰な生とあっけない死を簡素なセリフで描いて見事。」と評した通り、現代の日本社会を取り巻く様々な問題が、抑制された筆致ながらも読み手の創造性を喚起する形でリアリティを持って描かれており、多くの選考委員からその劇作能力を高く評価された。令和3年度は様々な事情が重なり、本助成事業として青年団公演が実施されない異例の年となったが、今回の受賞は複数の演出家、劇作家、多数の俳優を有し、世界水準の多彩な芸術作品を観客に提供する「シアターカンパニー」を目指す、青年団の理念を体現する結果となった。また、福名はキャリアも浅く、世間的には無名な中での受賞となったが、「こまばアゴラ演劇学校・無隣館」などを通じて初期からその才能を支え、継続した上演機会を提供してきた、こまばアゴラ劇場の人材養成機能の高さも裏付ける結果となった。「こまばアゴラ演劇学校・無隣館」は、本助成事業においてこまばアゴラ劇場が平成25年度～平成30年度まで継続的に開催してきた人材養成事業で、受講生から岸田國士戯曲賞受賞者を輩出することは当初からの事業目的の一つであり、ここへ来て漸く目的を達成したこととなる。福名は令和4年度11月に、受賞後初の新作公演「ぱぷりか『どっか行け！クソたいぎい我が人生』」をこまばアゴラ劇場で予定している。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

公演事業番号2, 4は、青年団演出部所属演出家による創作で、若い才能のブラッシュアップを図った。いずれの演出家も劇評が執筆されたり、テレビ脚本を務めたりするなど、それぞれが着実に頭角を表しており、今後ますますの活躍が期待される。公演事業番号5～8においては、全国各地の話題のカンパニーや、頭角を現しつつある気鋭の新人らによる創作活動を集め、東京という日本の中心に位置する劇場としての役割を果たすべく、多様なプログラミングを行った。人材養成事業においては、新人演出家・俳優の養成や、地域の高校と連携したワークショップ活動を継続して実施した。また今後ますます全国的な必要性が増していくと考えられるコミュニケーション教育分野において、専門性の高い人材をより多く輩出すべく、令和1年度より新規事業として「演劇ワークショップ研修会」を立ち上げ、引き続き3期目を開催した。こまばアゴラ劇場が長年継続し獲得してきた普及啓発事業等におけるワークショップファシリテーションの実績やネットワークを活かし、技術・ノウハウを共有していくという当劇場独自の人材育成活動によって、地域の文化芸術の発展や市場・裾野の拡大に寄与した。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

これまで人材育成事業として実施してきた「こまばアゴラ演劇学校・無隣館」では、一期2年のスパンで、これまで三期にわたって開催し、多くの才能を輩出した。また2020年度は実施会場を兵庫県豊岡市に移し、実質的な四期目にあたる「江原河畔劇場 演劇学校・無隣館」も開催している。2021年度は、無隣館三期出身者が青年団若手自主企画として3企画を上演した。中でも、俳優の山中志歩が平田オリザ戯曲『転校生』を企画・上演し話題を呼んだ。「シアターカンパニー」として機能することで、様々なセクションの人材が常に協働可能状態であることから、俳優発信の企画が高水準な作品として上演できることが証明できた。また、同じく無隣館三期出身者である福名理穂が、「こまばアゴラ劇場主催プログラム」として上演した作品で、第66回岸田國士戯曲賞を受賞した。同作品は2020年度に上演予定だったが新型コロナウイルス感染症の影響により中止になった。しかし、本年度の上演に向けて年度を超えて継続的な支援を行ったことで今回の受賞に至っている。こうしたことを始め、こまばアゴラ劇場が実施した公演事業や人材養成事業「青年団若手自主企画」によって、年間を通じて絶えず新しい才能の発掘と育成に努めた。これらの作家・実演家達は青年団に所属し、自身で集団を立ち上げたりなどして、公演事業としてこまばアゴラ劇場で上演を行う。このようにして若い才能が劇場を通じて段階的・持続的にステップアップしていくことが出来る環境が整備されている。また創作活動だけではなく、ワークショップ等の普及啓発・アウトリーチ活動についても、内部でファシリテーターの養成・育成を行い、こまばアゴラ劇場が持つネットワークを通じて全国で事業を展開しており、こうした活動が作品の招聘へと繋がるケースも多い。そうした意味においても、こまばアゴラ劇場が実施する公演・人材養成・普及啓発といったそれぞれの事業によって、単発の独立した企画ではなく、それぞれの事業が互いに影響を及ぼし合うことで、劇場の「機能強化」が推進されている。